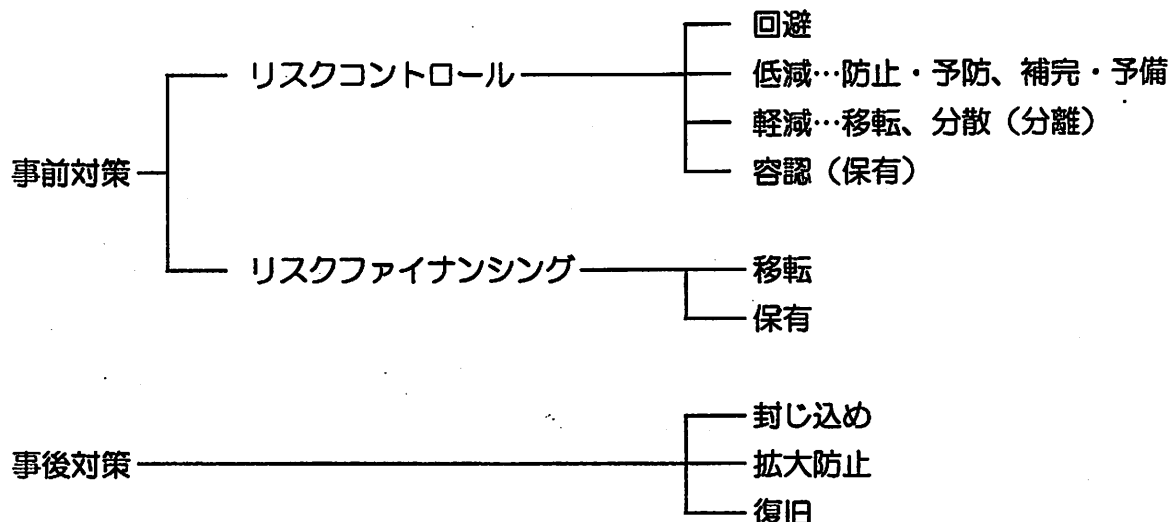


事後対策は損害が発生した後の対応ですが、「封じ込め」「拡大防止」「復旧」の3つの段階に分けて検討することが有効であります。



次回は事前対策や事後対策の目的と手法を説明したいと思います。

2. FPまいんど

9月後半から、円が急騰し海外で一時1ドル110円台をつけました。ドルやユーロなどの外貨での運用をしている方、これから検討しようとしている方もいると思います。

そこで、今回は外貨運用のポイントを説明します。

まず一言で言えば、長期に運用しトータルリターンで考えるということです。

その理由として、外貨運用は為替変動のリスクがあり、その変動の予測が非常に困難な事が挙げられます。特に短期運用は為替変動の影響を大きく受ける可能性があります。しかし、長期にわたる運用では、日本国内より高金利で長期複利運用すれば為替変動のリスクを吸収できる可能性が高まります。

例えば、10年国債の利率が日本1.25%、米国4.25%とします。金利差は3%でその3%分毎年円高が進むと仮定すると、110円の円相場は10年後に81円強となります。為替手数料などを除いて単純に計算するならば、この水準まで円高になっても米国債は日本国債と同じ金利分が得られます。もちろん円相場が同じ110円/1ドルであれば、4.25%の金利(10年間、為替手数料を除く)が得られます。また、円安(110円超/1ドル)になれば、為替差益も合わせて得ることが出来ます。

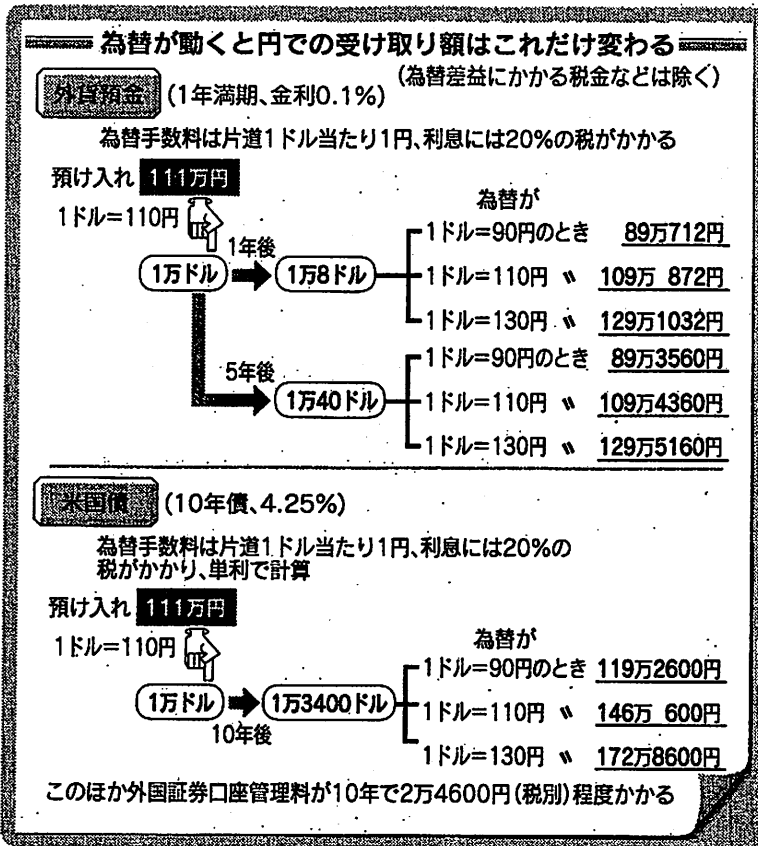
金利以上の円高になった場合、無理に円に変換せずにドルで殖やすことも考えましょう。

為替変動リスクは円に戻して、はじめて発生しますので、ドルのままでしたら、その金融商品特有のリスクだけとなります。

外貨建金融商品は、為替手数料に留意して下さい。円からドル、ドルから円に換えるときに為替手数料が発生します。他の通貨も同様に発生します。

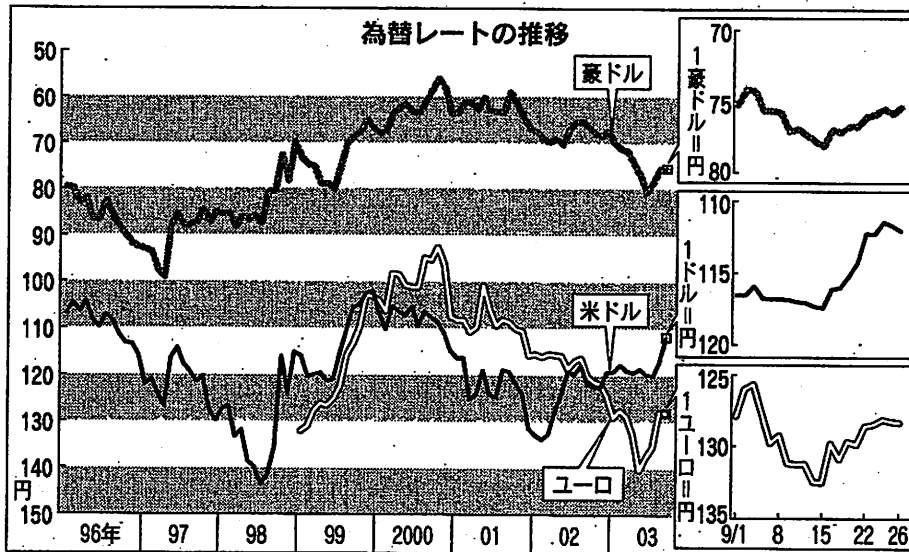
その他、金融商品によっては、外国証券口座管理料や送金手数料など手数料がありますので、特に取引高が小口の場合、注意して下さい。

以上まとめますと、外貨運用は表面上の提示されている金利だけではなく、運用期間や各種手数料、税コストを総合的に判断するべきです。目先の表面上の金利を追いかけて短期の売買を繰り返したりすれば、結果的に為替差損や各種コストに利益部分が食われ、逆ざやに



なる可能性もあります。また、投資のタイミングを特定しそこに集中投資をすることもハイリスクになりやすいので、投資時期をずらすのもリスク分散になります(ドルコスト平均法など)。

ドル運用のミュレーションと1996年以降の為替レートの推移を載せてますので、ご参照ください。



3. 保険DE運用

前段で外貨運用の話に触れましたので、保険商品でも外貨運用商品があるということと、現在好調な販売実績になっているということで紹介したいと思います。

まずは、米国通貨建積立利率変動型終身保険が挙げられます。この保険はプルデンシャル生命保険とアリコジャパンの2社で扱っています。

この保険の特徴は保険料の支払いも受取も米ドルとなっていることと、保険料を算定する重要な要素である、積立予定利率の最低保証が一般的な円建て保険商品に比べ高いことが挙げられます。プルデンシャル生命では、4.5%、アリコジャパンでは3.0%という積立利率(最低保証の利率で運用の結果ではそれ以上もなります、運用益は保険金額と解約返戻

金に反映されます)なので保険料水準がかなり安くなります。よって、終身保障のコストパフォーマンスが大変優れてるといえます。

ちなみに同様の仕組みで円建ての積立利率変動型終身保険の場合、積立予定利率はソニー生命とプルデンシャル生命では2.0%、アリコジャパンでは1.75%が最低保証となっています。それでも定額型の終身保険に比べ高い予定利率になっています。

ドル建ての商品なので為替変動のリスクや各種コストがかかりますので、留意して下さい。月払いの場合、一般的に投資のタイミングを分散化できるいわゆる「ドルコスト平均法」になると思われますが、ドルの口座からドルのまま保険料が振替となりますので、ドルの口座に繰り入れた時点での為替レートになります。よって、出来るだけ円高の時点でドルに入金するか、定期的にドル口座に入金するという工夫が必要となります。

4. 新商品紹介

アイエヌジー生命保険から新型ガン保険「フレクシング」が10月2日より発売となります。保険期間は10年タイプと終身タイプが選べます。

アイエヌジー生命のガン保険は入院給付額1日当たり5,000円の小口から、1日当たり60,000円の入院給付金まで1,000円刻みで幅広く選ぶことが出来ます。型によっては入院給付金最高1日当たり30,000円の限度というタイプもありますが、C~E型は最高60,000円までとなっています。

C型にいたっては入院60,000円の場合、ガン手術は内容によって600,000円・1,200,000円・2,400,000円となります。ガンによる死亡・高度障害時は24,000,000円となり、ガン診断給付金は9,000,000円、ガン退院後療養給付金は1,800,000円と大型保障に告知のみ(医師の診査無し)で加入できます。

また、法人契約においては福利厚生の一環として、数多く採用されています。

法人税法の通達により、全期払いのガン保険は全額損金計上ができるので、税の軽減に貢献します。また、終身タイプの場合解約返戻金があるので、含み益をつくるにも最適です。

今回の商品は解約返戻率も従来型よりも高くなっています。

A型プラン、40歳男性の場合

1年後解約返戻率	68.39%	5年後解約返戻率	78.39%
10年後解約返戻率	81.71%	15年後解約返戻率	83.24%
20年後解約返戻率	84.54%		

と長期に安定して高返戻率を維持しています。法人実効税率が40.87%と仮定しますと、その効果は1年後からすぐに顕われます。

大型保障を望む個人、福利厚生を充実しつつ含み益を構築したい法人に向いています。

発行者

山形安全情報企画 武田幸夫

〒994-0054 山形県天童市荒谷2589

TEL 023-654-8831 FAX 023-654-8832

E-mail tide@mm.newweb.ne.jp